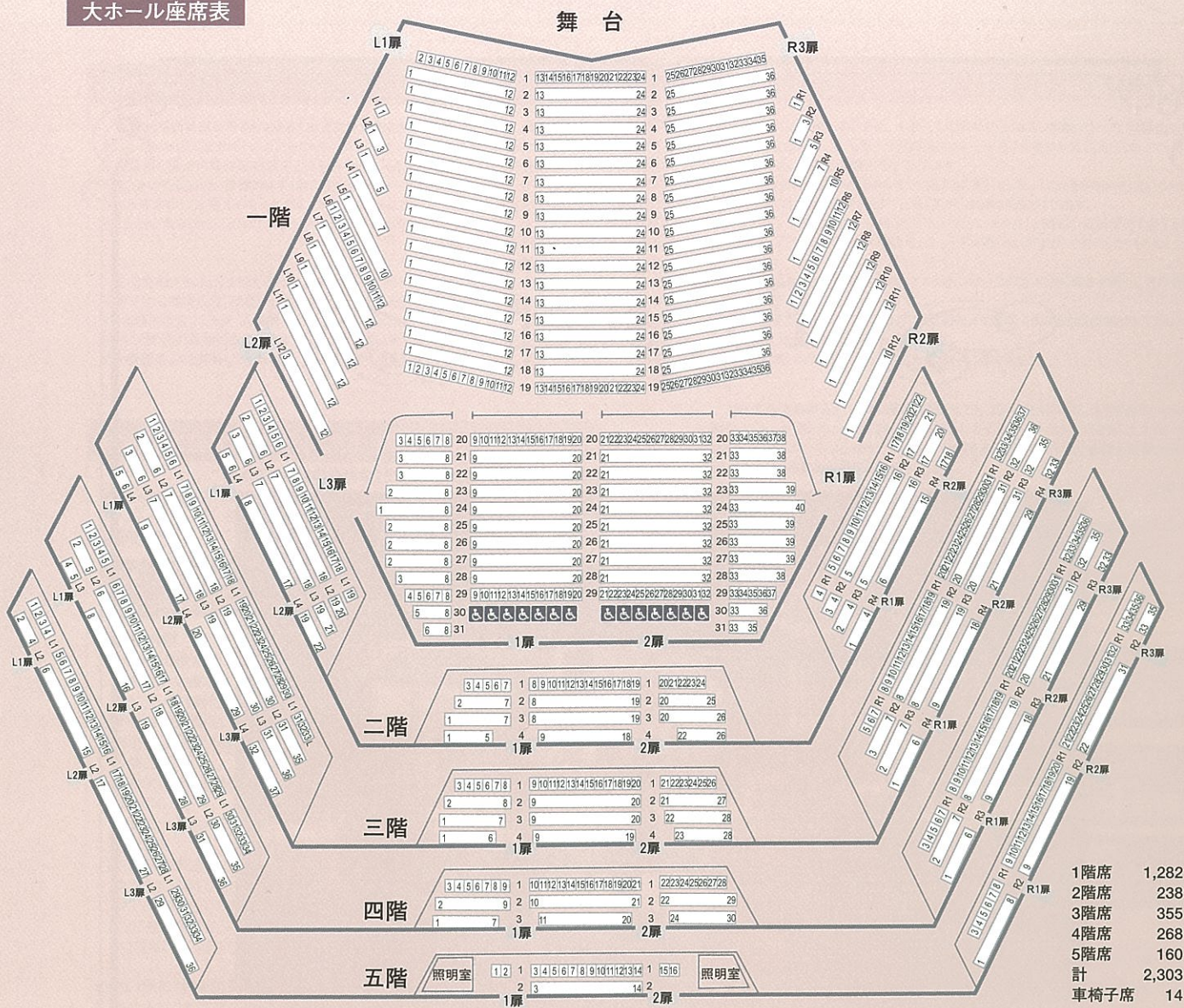
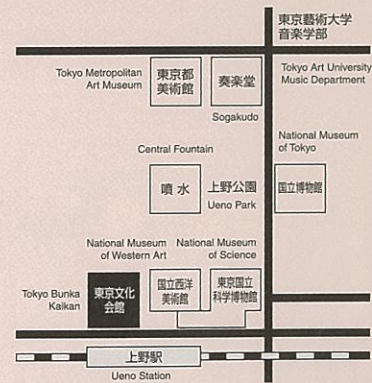
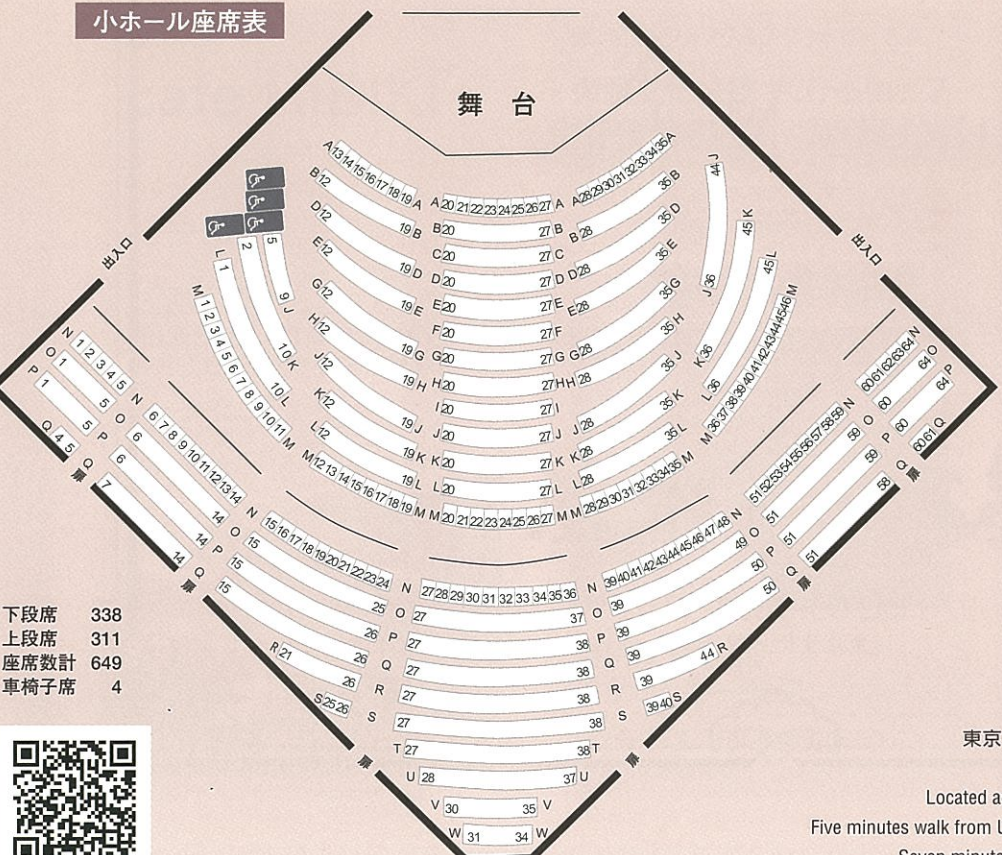


大ホール座席表



小ホール座席表



JR線「上野駅」公園口前
 東京メトロ 銀座線・日比谷線「上野駅」徒歩5分
 京成線「京成上野駅」徒歩7分
 Located across from the Koenguchi exit of JR Ueno Station
 Five minutes walk from Ueno Station of the Ginza and Hibiya subway lines
 Seven minutes walk from Keiseiueno Station of the Keisei lines



東京文化会館モバイルサイト

音脈

Vol.36
 2009 Autumn

2009年8月21日発行
 発行 東京文化会館
 編集 東京文化会館事業企画課
 印刷 日本印刷(株)

〒110-8716 東京都台東区上野公園5-45
 03-3828-2111(代表)
<http://www.t-bunka.jp/>
 E-mail: oto@t-bunka.jp

東京文化会館公演情報
 2009年10月~12月

音脈



CONTENTS

- 「舞台芸術創造プログラム」インタビュー 2
- 木之下見のレンズは語る 5
- インフォメーション information 6
- 開館50周年に向けて 8
- 「東京文化会館の音響設計」
- 秋の公演から 12
- 催し物案内10月~12月 14
- 音楽資料室より 20
- 都響ニュース Vol.13 21
- プレゼント 他 22

Vol.36
 2009 Autumn



「隅田川」&「万葉集」

Interview

by
千住明
黛まどか
大友直人

2007年の初演で好評を博した「隅田川」と、人気女流俳人・黛まどかが紡ぎ出す「万葉集」の新たな世界。今回両作品を指揮する大友直人（東京文化会館音楽監督）をホストに、音楽担当の千住明と台本担当の黛まどかに、新作に対する意気込みを聞いた。

大友：今年の東京文化会館主催公演、舞台芸術創造プログラムの製作に、私の最も信頼する千住明さんに作曲をお願いすることができ、その千住さんから日本を代表する俳人である黛まどかさんをご紹介いただくこととなり、お二人の合作「万葉集」を東京文化会館小ホールで上演することになりました。今、最も人気があり多忙なお二人をお願いすることができたことは、本当に嬉しく、どのような作品になるか心待ちにしているところです。
お二人に創作への思いや構想などお聞きしたいのですが。



千住：僕は大友さんからお話をいただき、いろいろな発想が浮かんで来て、瞬間的に「黛さん！」とひらめきがありました。万葉集というのは、この1000年以上の歴史の中で世界に誇ることができる日本を代表するスタンダードの歌なんです。今までその万葉集をいろいろな人がいろいろな事をしようとしていたけれども、今、世界発信ができるような状況と、人と人が集まったんじゃないかと思っています。このように良かたたちでスタートできることがとても、とても嬉しいんです。

万葉集は全部で何首あるんですか？

黛：4516かな。

千住：凄い数ですね。今後、次の世代の人たちにバトンを渡すようなかたちで万葉集を分かりやすく作り直す。それが僕らの使命じゃないかなと思うんです。今、日本で、この場所でそれ

が出来るんじゃないかと思う。

黛：ぜひ、五七調でつくりたいですね。五七調は内在律、日本人の心身に刻まれたリズムです。

千住：ええ。もちろん、元の歌の響きの美しさというのも、とても大切なことだと思います。今回のステージでは相聞歌のようなかたちでストーリー的にも並べられるようにしたいんです。今回は、まずちゃんとステージ化する。この間二人で話をした構想どおりに（笑）。

黛：はい。（笑）

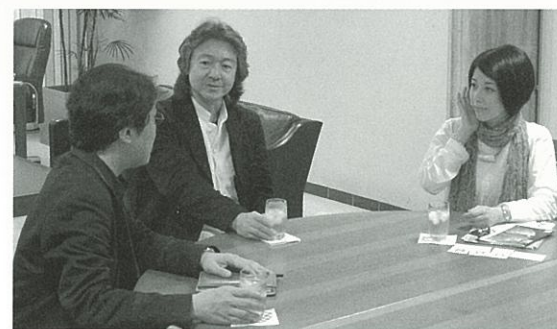
万葉集って西暦400年代から700年代に詠まれた歌を集めたんですけども、その時代のヨーロッパには歌集ってないんですよ。そういう意味でも海外にも発信していきたいなと思うんです。日本の誇るべき文化だと思う。

千住：そうですね。

黛：しかも天皇から貴族、官僚、庶民、兵士の歌まで、すべて載っているっていうのが、万葉集の素晴らしさ、ダイナミズムではないでしょうか。そういうものも同時に発信して。ただ、あのころはどういう節を付けて歌っていたかは分からないので、それを現代に蘇らせてみたいです。

千住：そうですね。だから、その節回しも、翻訳するようなかたちに、そういう発想で何か新しい舞台が出来上がる。そしてシリーズ化できるんじゃないかとすごく期待しているんです。

黛：いいですね。



千住：万葉集のどこからやっていますか。

黛：ええ。やっぱり、聞いている方も知っている歌詞が出てくると嬉しいじゃないですか。なので、かなり直球ですが、額田王をめぐる天智天皇と天武天皇の恋争いなどは入りやすいと思います。

千住：人間の変わらない永遠の課題みたいなところもあるし、いいんじゃないですかね。

黛：ええ。あとは、当時、万葉時代の飛鳥の風景というものを表現したいです。「山があって、川が流れていて明日香風が吹いている中で、こんな恋の話がありましたよ」というのを、舞台を観たお客さんが、飛鳥という都や時代を描いていってくれるといいなと思います。だから、恋歌、人と人の歌の間に、風景の歌を入れて、みんなで創りあげていこうにしたいんです。

大友：素晴らしい。

千住：一つの短編映画を見るようなかたち、また、音楽を聴くようなかたちで、その情景が思い描ける情景描写…。

大友：イメージは膨らむし、ちょうど「隅田川」との組み合わせを考えると最高ですよ。

黛：そうですね。

大友：元々、東京文化会館という伝統あるクラシックホールで、この国の歴史や、伝統を生かしながら現代に求められる新しい

作品をつくりたいというコンセプトの中から千住さんが考え出してくださったものが「隅田川」でした。だから、今回の黛さんとの出会いは本当に感動的です。

千住：僕も本当にそう思います。今回は必然的に思い付いたんです。先日万葉集の番組に出させてもらったんです。もうその時には黛さんで万葉集というのは僕の中にあっただけですけど、改めて万葉集について考えることが出来て、黛さんのように、新しい言葉が出てくるような方と組むことが出来るのは、本当に楽しみです。

黛：どうしよう（笑）。ただ、短詩型の歌っていうのは、七五調というリズムに乗って初めて言葉が上がってくるという世界なんです。俳句も短歌も、外国語に翻訳すると、例えば「古池に蛙が飛び込みました。」「…えっ、だから？」みたいな。意味だけを取っていきとそうっちゃうんです。五七調に乗ってはじめて一つの世界が出来上がるので、現代語訳をどういふふうにしていこうか、悩んでいます。

大友：でも、五七五って言うけれど実際に普段我々が歌を詠む場合には、5と7の間に休みのリズムをカウントして、つまりタタタターというふう。ね。だから実は4と8で割り切れるんです。これ非常に西洋音楽的です。

黛：ほんとだ。すごい。

千住：例えば日本の三三七拍子はタタタ・タタタも全く同じですよ。大友：そうそう。それも4拍子。休みもカウントさせて4拍子なんです。千住：ただ、その4拍子の休みを埋めていっちゃえば、それでもいいし。まあ1拍ぐらいになると息継ぎができなくなってくるので、その辺は考えていきますけど。

黛：ええ。そう。でも、それを現代語訳で、五七五でやったとしても、本歌にはかなわない。現代語訳っていうよりは、その歌を際立たせるような背景を詩的につついていこうか。そのまま、歌を今の言葉に置き換えるよりは、その歌はどういう状況でこうなったのかということを追っていきいこうか、それは、だから

「隅田川」&「万葉集」

解説ではなくて詩的にフォローしていくようなものもあると。

千住：そうですね。歌劇作品をつくり、新しいかたちの万葉集を伝えていきたい。ここで何らかの僕らのフィルターが入らないといけないと思います。このフィルターのやり方をどうするかということでしょう。

大友：作品が楽しみになってきますね。よく出会ってくださいました。

千住：ああ、何か運命を感じますよね。

黛：そうですね。運命(笑)。

千住：そうさせちゃったんです。よく思い付いたと思って(笑)。

黛さんの顔がパッと浮かんだんだもの。

黛：本当ですか?でも、今回は今までの万葉集とは、全然違うものがつくりたい。びっくりさせたいですね。

千住：そうですね。

大友：想像すると、とてもワクワクしてきます。お話を伺っていて、今から仕上がりがとても楽しみです。絶対に良い作品になると確信しています。

東京文化会館舞台芸術創造プログラム

「隅田川」&「万葉集」

2009年12月11日(金)19:00開演(18:30開場)
12日(土)18:00開演(17:30開場)

東京文化会館小ホール



2007年「隅田川」初演 ©青柳聡

【プログラム】

「隅田川」(音楽/千住明 台本/松本隆) ※再演

「万葉集」(音楽/千住明 台本/黛まどか) ※新作

【出演】

大友 直人(指揮)

小林 沙羅(ソプラノ)

中嶋 克彦(テノール)

和田 ひでき(バリトン)

富岡 明子(「万葉集」メゾソプラノ) ※第1回東京音楽コンクール声楽部門第3位

吉田 早奈恵(「隅田川」子供役)

深山 尚久(ヴァイオリン)

野口 みお(フルート) ※新日本フィルハーモニー交響楽団

蠣崎 耕三(オーボエ) ※読売日本交響楽団首席奏者

重松 希巴江(クラリネット) ※新日本フィルハーモニー交響楽団首席奏者

吉田 将(ファゴット) ※読売日本交響楽団首席奏者

井上 美江子(ハーブ)

二期会合唱団(コーラス) ほか

【料金】S席6,000円 A席3,000円 ※東京文化会館友の会割引 S席4,800円 A席2,400円 【主催】東京文化会館(財団法人東京都歴史文化財団)

【発売日】9月26日(土) ※9月18日(金) 東京文化会館友の会先行発売

【問合せ】東京文化会館事業企画課 03-3828-2111

【チケット問合せ】

東京文化会館チケットサービス:03-5685-0650 チケットぴあ:0570-02-9999 e+(イープラス):http://eplus.jp/

ローソンチケット:0570-000-407(オペレーター対応/10:00~20:00)



作曲家

千住明 Akira Senju

1960年東京生まれ。慶応大学工学部を経て、東京芸術大学作曲科卒業。同大学院を首席で修了。修了作品「EDEN」は史上8人目の東京芸術大学賞上、東京芸術大学美術館(芸術資料館)に永久保存。代表作に羽田空港第2ターミナル環境音楽「四季」やオペラ「隅田川」、詩篇交響曲「源氏物語」。テレビ

ドラマ「ほんまもん」「砂の器」「風林火山」、映画「愛を乞うひと」「黄泉がえり」「涙そうそう」「風が強く吹いている」、アニメ「機動戦士Vガンダム」「鋼の錬金術師」他、CM、ドキュメンタリー等数多くの音楽も担当。3度の日本アカデミー賞優秀音楽賞等受賞歴多数。ジェーン・バーキン、シセル、ザンフィル等海外アーティストのプロデュースも手がけ、作曲家・編曲家・音楽プロデューサーとして幅広くグローバルに活躍。東京音楽大学客員教授。(2009年7月現在)

URL: http://www.akirasenju.com



俳人

黛まどか Madoka Mayuzumi

神奈川県生まれ。1994年、「B面の夏」50句で第40回角川俳句賞奨励賞受賞。同年、俳句サークル「東京ヘッパーン」発足。1996年、俳句誌「月刊ヘッパーン」創刊・主宰(2006年、通巻100号を機に終刊)。1999年、北スヘイン・サンチャゴ巡礼道約900kmを徒歩で踏破したのに続き、2001年~2002年、四季

にわたり5回訪韓し、釜山からソウルまでの道のり約500kmを徒歩で踏破。2002年、「京都の恋」で第2回山本健吉文学賞受賞。2005年より「日本再発見塾」呼びかけ人代表。主な著書に、句集「B面の夏」(角川書店)、紀行集「らからら」(奥の細道)、「星の旅人」(以上、光文社)、「サランヘヨ」(実業之日本社)。近刊に「あなたへの一句」(バジリコ)、「俳句脳」(角川書店)、「文豪、偉人の「愛」をたどる旅」(集英社)。

2006年12月より携帯メールマガジン「黛まどかの「俳句でエール!」」(2008年より「週刊まどか歳時記」)を無料配信中。登録アドレスhttp://madoka575.co.jp/mmm/黛まどか公式ホームページhttp://madoka575.co.jp

木之下晃のレンズは語る



ジャン=ピエール・ランパル(セルジュ・ボド指揮・読売日本交響楽団第115回定期演奏会より) 尾高尚忠作曲・フルート協奏曲

©Akira KINOSHITA

ジャン=ピエール・ランパル

木之下 晃/写真・文

ジャン=ピエール・ランパルはフルートという楽器を、現在のようにソロ楽器とし、「フルート革命」を起した人で、チェロのパプロ・カザルス、ギターのアンドレ・セゴビアと並んで、新しい音楽の地平を切り拓いた人である。

ランパルは1922年フランスのマルセイユに生まれた。父親がマルセイユ音楽院のフルート教授で、13歳の時、父の手ほどきでフルートを始めた。しかしその頃、ファシズムが台頭してきたことから、音楽では食べられない時代が来ることを予測して、40年に18歳で医科大学に進学。ところがナチス・ドイツ軍がフランスを占領しはじめ、医学生は戦地に強制徴用される危険が迫ってきたので、3年に在学のまま、パリ音楽院に入学。名手マルセル・モイーズに師事。たった5ヶ月という史上最短の在籍で、プリミエ・プリ(首席)をとって卒業した伝説を持つ。

戦後直ぐの47年に、ジュネーヴ国際コンクールで優勝。ヴァイター歌劇場、フランス国立放送管弦楽団を経て、56年から7年間、パリ・オペラ座の首席奏者として活躍。その名人芸が評判となって、ソリストとして独立。未だ現在のようにソロで活躍するフルーティストが少ない時代で、彼がフルート界最初のソリストとなった。

初来日は64年で、読売日本交響楽団創立2周年記念公演に出演、東京文化会館で演奏した。以降35年間に25回来日を重ね、300回を超える演奏会を展開した。

彼はレパートリーが広く、バロック以前から現代曲まで。日本の曲にも興味を示し、尾高尚忠や矢代秋雄のフルート協奏曲をはじめ、宮城道雄の『春の海』や文部省唱歌の『荒城の月』など、多彩な演奏を聞かせた。地中海育ちらしく、太陽の輝きを感じさせる芳醇な音色が素晴らしい。聴き手を魅了した。

私は72年に日比谷公会堂で、初めてカメラを向けてから数多くの撮影の機会を持った。そして、99年11月2日に東京文化会館で弟子のブラジル人のクラウディオ・アリマニーと協演した公演が、日本でのラストコンサートになった。東京文化会館に始まって、東京文化会館で終わったのである。その公演が終了後、楽屋で彼のポートレイトを撮影したが、疲れのためか、かなり朦朧としていたことが思い起される。そのショットは、私の近刊『石を聞く肖像』に納められているので、ぜひともご覧いただきたい。

巨匠は翌年5月20日にパリで逝去。享年78、今はパリのモンパルナスの墓地に眠っている。

木之下晃氏 近刊

『石を聞く肖像』(飛鳥新社)

『青春の音楽PMF-Sapporo』(北海道新聞社)

『ミュゼザ川崎のマエストロ〜音楽の決定的瞬間』(ミュゼザ川崎シンフォニーホール)

東京文化会館の音響設計

◆まえがき

現在、都内にはサントリーホールに引き続いてオーチャードホール、東京芸術劇場、東京オペラシティコンサートホール、すみだトリフォニーホールなど2000席クラスのコンサートホールが開館し、それぞれの特色を背景に独自の活動を展開している。なかでも、50年の歴史をもつ東京文化会館は今日でも、堂々とした建築空間と独特の響きによって、わが国のクラシック音楽ファンのみならず、海外の楽団、演奏者からも高く評価されている。コンサートホールの黎明期といえる1960年代の初頭に、国際的にも評価の高い音楽ホールが誕生したことは、今から考えると奇跡といつてよいほどの成功であった。これは、施主東京都の音楽ホール建設に対する熱意と綿密な計画、建築設計者前川國男氏のホールに対する構想の素晴らしさとホール音響に対する姿勢、それと音響設計を担当したNHK技術研究所の技術力、これら三者の理想的ともいえる協力体制がもたらした成果だとおもっている。ここに、50余年前の計画段階から着手した本会館の音響計画・音響設計の経緯と内容と合わせ、半世紀のなかで着実に進められてきた改修の概要を紹介したい。

◆基本計画から完成までの経緯

本会館の計画は1953年6月に設置されたミュージックセンター設立発起会に始まる。ここで、音響設計上の基礎事項および建築上の諸問題を検討する技術研究班が組織され、それぞれの課題をNHK技術研究所、東京都建築局営繕部が担当した。構想段階から建築条件の検討とともに音響上の諸問題を取り上げたことは、当時の東京都建築局の英断と見識の高さを物語っている。この構想は、1956年10月に東京都開都500年記念事業として東京都記念文化会館の名称で実施することに発展し、現在の東京文化会館の基本計画がまとめられた。引き続きその実施設計を前川國男建築設計事務所、音響設計をNHK技術研究所が担当した。施工は清水建設(株)(建築)、東洋キャリア工業(株)(空調設備)、日本音響精機(株)(音響設備)他で、着工は1958年4月、竣工は1961年4月、総工費は16億3千万であった。

開館時の施設の構成を表-1に示す。当初、国際会議用として計画された小ホールは会議に使用されたことはなく、音楽専用ホールとして今日に至っている。

表-1 東京文化会館の概要

設備	使用目的	床面積㎡	収容人数
大ホール	純音楽、オペラ	1,530	2,327
小ホール	小編成音楽 国際会議	491	661 645
大会議室	国際会議	175	51
中会議室 No.1	一般会議	116	20
〃 No.2	〃	109	20
小会議室 No.1	〃	87	20
〃 No.2	〃	44	12
応接室 No.1~No.5	〃	29	
音楽資料室 書庫	〃	117	
〃 閲覧室	〃	87	24
音楽鑑賞室 No.1、No.2	レコード・テープ鑑賞	50	各 25
視聴室	研究のための演奏	58	24
研究室	イヤホンによるレコード試聴	17	
集会室	〃	73	
リハーサル室 A	バレエ、オーケストラ	191	
リハーサル室 B	オーケストラ	138	

◆当時のコンサートホール事情

本会館竣工まで、大型のクラシック演奏会場といえば日比谷公会堂が唯一ともいえる施設であり、カラヤン率いるベルリンフィルの最初の来日公演も日比谷公会堂で行われた。一方、中規模のコンサートホールとして、1954年に横浜市の紅葉坂に神奈川県立音楽堂、1955年に当時東京新橋にあった日本放送協会東京放送会館敷地の一角にNHKホールがオープンした。わが国では高度成長期の波にのって1960年代の後半あたりから、市民会館、県民会館建設ブームが到来し、各地に多目的ホールが誕生する。しかし、戦後のわが国のホールの草分けともいえるこの二つのホールがいずれもコンサートホールとして計画されたことはわが国のクラシック音楽界にとって、また、劇場建築界にとって、特筆すべきことといえよう。

計画当時、海外の音楽ホールの事情について私も関係者はまったく知る由もなかったが、1951年、ロンドンにロイヤルフェスティバルホール、1962年、ニューヨークにフィルハーモニックホール、1963年、ベルリンにノイエフィルハーモニーがオープンしている。しかし、これらのホールの音響設計、音響効果についての情報はもちろん、現在、音楽ファンの関心の的であるウイーン楽友協会大ホールについてさえ、情報はなかったのである。

◆当時の建築音響設計技術

現在、音響設計は建築設計の一部門として定着しており、とくに、音楽ホールの計画にあたって、音響設計は欠くことのできない部門である。しかし、東京文化会館の計画が進行していた当時、音響設計という業務の具体的な内容、建築計画、設計、施工という建築の流れのなかでの進め方については全くといってよいほど未知の領域であった。ただし、幸いにも1951年、NHK技術研究所に音響研究部が組織され、建築音響研究室が誕生する。NHKホールの設計にあたって、建築音響研究室はこれを主要な業務として取り組んだのである。一方で、NHKには戦前からのラジオスタジオの建設をとおして、スタジオ音響についての経験的な資料の蓄積があった。しかし、大型音楽ホールの設計資料は皆無という状況であった。唯一ともいえるのは、所長から建築音響研究室にまわってきたロイヤルフェスティバルホールのカラー刷りのパンフレットであった。その鮮やかな誌面は今日でも鮮明に覚えている。

ところで、現在、建築音響設計といえば、下記の三つの部門になる。それぞれ、騒音防止・遮音設計、室内音響設計、それと電気音響設備設計である。具体的には、静けさの設計、心地よい響きの設計、聞きとりやすい音響設備の設計といえる。現在のように、環境の騒音が増加し、ホール内には多数の設備機器が設置されている状況で、コンサートホールとして、まず必要なのは「静けさ」である。しかし、当時はまだ騒音問題は生じてなく、大音量のポップ音楽もうまれていなかった。音響の関心は空間の響きであり、NHKホールの主業務は室内音響設計であった。

コンサートホールの室内音響設計といえば、今日でも残響時間が主要な検討項目である。この残響時間は1900年にアメリカの音響学者W.C.Sabineによって考案された音場理論である。残響時間とは室内でオルガンの鍵盤を押して音を発生させ、室内に音が十分ゆきわたったときに鍵盤を放し、音の発生を切った後に残る図-1aに示すような響きという。図-1aにおいて、縦軸は音圧レベル、横軸は時間である。残響時間(秒)は音源切断前の室内の音の強さ(音圧の2乗に比例する)が

100万分の1に減衰するまでの時間として定義されている。これに対し、室内で拍手のようなパルス性の音を発生したとき、受音点で観測される同図-1bのような反射音群の時間系列を示す波形、これを短音残響波形、エコータイムパターンという。この構造が室内音響効果に関係することが戦後、西ドイツの研究グループの成果として発表され、これが契機となって室内音響研究はもっぱら反射音群の時間構造と室内音響効果の関係の解明に集中し、響きの特徴が明らかになったのである。

ところが、東京文化会館の設計段階では、反射音群の構造のごく初期の研究成果しか明らかではなかった。具体的には図-1cの波形のように直接音から遅れて到来する単一の反射音の効果の研究である。これを発見者の名前をとってHaas効果という。それを要約すると、直接音から50msまでの反射音は直接音を補強し、50ms以降の反射音はエコーとなって障害となる、という効果である。このHaas効果が東京文化会館の響き、反射音の設計に共通する設計理念となったのである。現在の設計理念からいえば、この考えは完全ではない。しかし、次章で述べるように、様々な視点からの検討結果の集積として大小ホールの現在の響きが生まれたのである。

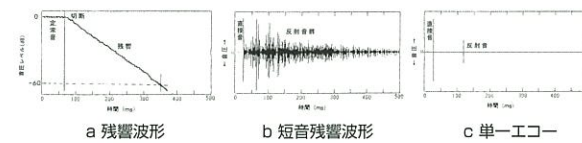


図-1 残響波形

◆音響設計の概要

本施設の音響設計は、基本構想の段階から着手し、基本設計、実施設計、工事監理と最終段階の音響測定まで、NHK技術研究所が東京都との直接契約で実施した。また、その内容は騒音防止・遮音設計、室内音響設計、電気音響設備設計を包含するもので、牧田康雄建築音響研究室主任をチーフとして建築音響研究室、音響機器研究室が担当した。今日の技術レベルからみれば設計手法も模索しながらの作業であり、設計資料も十分ではない環境にあった。しかし、東京文化会館の音響設計は総合的な建築音響設計を組織的に実施した最初のプロジェクトであり、この成果を基盤として戦後における多目的ホールの音響設計の手法が確立し、発展したのである。当時の音響設計の内容を次に示す。

1. 騒音防止・遮音設計

(1) 常磐線貨物列車の騒音、振動対策

当時、問題となった外部の騒音、振動源は上野駅ホームを通過する常磐線の貨物列車であり、設計の初期の段階において敷地における騒音測定とともに振動測定を実施した。これらの結果から、牧田主任はホールの配置計画の検討が最重要課題であると判断し、施主、設計者にそのことを納得させた。具体的には、図-2に示すA、B、C、D、E、Fの6案について建築計画と音響条件から比較検討し、最終的に大ホール舞台を線路から最も離れた場所に配置するE案とした。

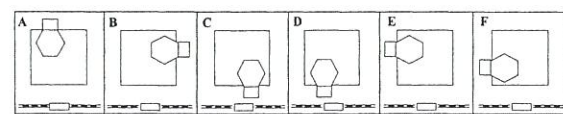


図-2 大ホール配置計画の比較検討

E案の問題点は汽笛音に対しての小ホールの遮音である。これは、その後の改修で小ホール客席後部周辺の廊下の窓の遮音を強化したことで解決した。また、いつ頃かから定かではないが、ホームを通過する常磐線の貨物列車が姿を消した。汽笛音の遮音構造として、当初、大ホール舞台外壁の内側と屋上コンクリートスラブの上に防振支持した遮音層を設置した。ホールでの防振遮音構造の採用はこの会館が最初であったが、これは、1999年の改修工事で撤去された。現在、外部騒音の障害は全くない。

(2) 空調設備騒音対策

建物の冷暖房設備も普及し始めた時代であり、その空調騒音の総合的な防止対策も初めての試みであった。騒音源である各送風機の音響出力のパワーと室内の許容騒音から、必要な減衰量を算出し、これを満足する吸音ダクトを配置した。

2. 室内音響設計

(1) 大ホール

2,300席という大空間の室内音響設計について当時の文献から得られた唯一の知見はHaas効果であった。設計者から提示された大ホールは六角形平面の客席を6.5度外傾した側壁が囲むという空間で、最初は2次元の平面について、最終段階では3次元について初期反射音の追跡を手作業で実施し、反射音の時間系列からその特徴の把握に努めた。その結果50ms以降の反射音に関わる面には拡散体、あるいは吸音面を設置した。その代表例が大ホール前方側壁のむくの木を積層した拡散体と舞台上部から前方客席上部にかけて大きくカーブした固定反射板である。写真-1参照。この拡散体は建築設計者故前川國男氏、デザインを担当された彫刻家の向井良吉氏、それと音響設計を担当された故牧田康雄氏の共同作品である。それぞれのパネルは板を縦方向に積層した重量のある一体型の構造で、その大きさ、えぐりの深さは音響側からの要求である。製作は将棋の駒の工房、天童木工である。また、吸音面の表面には、ピッチ幅、リップ間隔とも不規則なリップ構造を採用した。これもこの文化会館が最初であった。

初期反射音については、もっぱら天井からの反射音を利用し、舞台から遠い位置ほど初期反射音を重ねるという当時の設計の考え方で行った。図-3参照。反射音追跡の検討結果から、案が出されたのが下方に凸に湾曲した天井である。この天井は現場打ちの50mm厚のコンクリートであり、この構造が大ホールの「温かい響き」の大きな要因であると筆者は考えている。

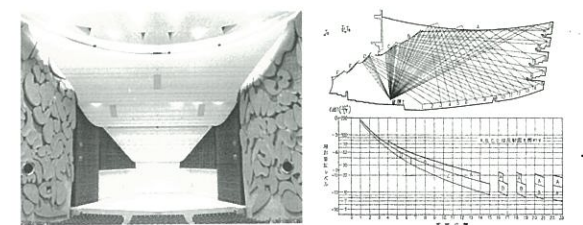


写真-1 大ホール

図-3 大ホール天井形状の検討

大ホールの舞台にはオペラ、バレエなどへの対応を考慮し、可動の音響反射板が計画された。音楽ホールにとって舞台空間は剛な反射壁で囲まれていることが必須の条件である。また、舞台空間の拡散は演奏者にとっても、聴衆にとっても重要な音場条件と考えたからである。一方、オペラ、バレエなど反射板を使用しない催し物を考えると、この

反射板くらい邪魔なものはない。舞台上部空間への格納という条件を考えると、軽く、バトンなどの吊り物のスペースを邪魔しない薄い構造が望ましいことは明らかである。しかし、これはコンサートホールの条件と真向から対立する。開館後のドイツオペラの上演にあたって、オペラ関係者から、こんな反射板は燃やしてしまえ、といった発言まであった、と耳にしたことがある。反射板は合板の間にリノリウムを挟み、共振を押さえた構造で、厚さ60cmに及ぶ山形の拡散構造をふんだんに採用している。この舞台反射板は1999年の大改造で、反射板全体を地下に収容することでやっと解決したが、それまでは、舞台関係者からは根深い反対のなかで活用されてきたのである。

(2) 小ホール

小ホールはもとも国際会議場として計画されたが、会議場として使用されたことはなく、開館以来リサイタル用ホールとして利用され、今日に至っている。現在、中通路によって後方の席との間に大理石の壁があるが、これは、国際会議場として使用されたとき、記者席とを区切る壁で、後方の席の聴衆には邪魔になるということで、1984年の改修工事の際、上部が約10cmカットされ、現在の高さとなった。

この空間は正方形の一隅を舞台として、正面に折れ壁状の拡散反射壁が天井近くにまで立ちあがっている。天井は大ホールと同じように下向きに凸の曲面で舞台から後方に向かって低くなり壁とつながっている。写真-2参照

両側壁はコンクリート壁で、そこには、彫刻家流政之氏製作のコンクリート製の拡散体が配置されている。全面に不規則リブ構造を設置した後方の壁の吸音壁は1984年の改修工事で半減され、残響時間は当初の1.2秒から1.4秒と長くなった。それでも、最近の都内の中小ホールとしては短めであるが、大多数のピアニストから好まれており、これがこの小ホールの響きの特長の1つとなっている。

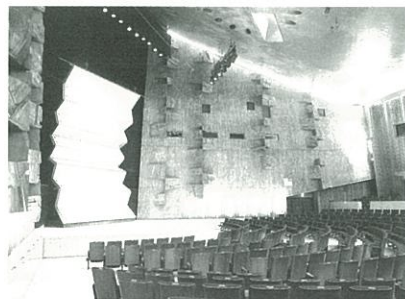


写真-2 小ホール

◆拡声施設的设计

当初の設備は拡声を目的として設計したが、改修のたびに音響設備は拡張され、現在は天井反射板の中央と左右にメインのスピーカ(APOGEE AE-5)が配置されている。開館当時のメインスピーカは、NHK技術研究所で開発したモニタースピーカ(三菱電機製2S-305)で、現在、両側壁の拡散体の下向きの面それぞれに大小2つの開口部が確認できる。ここにも、音響設計50年の歩みを感じるのである。

◆改修の内容

50年たった東京文化会館が今日も古さを感じることなく、むしろ、ますます、新鮮な風格を感じさせることは、建築設計、施工の品質が高かったことは当然であるが、会館側の保守点検作業とともに、計画的な改修

を進めてきたことによるものである。度々の改修をとおして一貫して求められたことは大ホールの響きを変えないで、オペラ、バレエ上演を指向した舞台機能を拡充することであった。主要な改修工事の内容を表-2に示す。

表-2 主要な改修工事の内容

- ・1970年：オペラ用照明設備の設置、側方反射板の地下への格納、オケピット拡張と吸音処理
- ・1978年：スプリンクラーの設置、照明設備、音響設備の大幅な改修
- ・1984年：小ホール後壁一部、舞台後壁および天井の吸音層撤廃、中通路手摺石壁上部カット
- ・1985年：大ホール客席椅子の交換、地下Cリハーサル室新設
- ・1986年：小ホール客席椅子の交換
- ・1999年：大ホール舞台反射板を一体化して地下に格納、空調設備、舞台照明、舞台機構、音響設備全面改修、楽屋全面改修、エントランスロビーの模様替え、トイレ増設など

東京文化会館では、開館後16年目以降は毎年のように夏の休館日を利用して手直し工事を行ってきたが、1998年3月31日に閉館、13ヶ月の工事をおえ、1999年5月28日にリニューアルオープンした改修は、平成の大改修と呼ぶにふさわしい大工事であった。改修項目は舞台、楽屋、客席周り等と多岐にわたった。しかし、改修の目玉はなんといっても“舞台天井のすのこと舞台設備の全面的な更新”と“音響反射板”に関する工事であった。前者は構造体の劣化に対して強度を増すため、フライ上部を6m撤去し、新たに鉄骨構造(外装PC板+軽量コンクリート打設)で架け替えるという大がかりなものである。一方、後者は今まで正面反射板を舞台奥に、側面反射板を2分割して上部と奈落に、天井反射板を上部にそれぞれ分割収納していた音響反射板を一体化して奈落へ収納するという予想を超えた規模の工事であった。そのために、奈落の下を8m掘削し奈落ピットを造るという工事まで行われた。図-4参照。これらの工事により、荷重的にもスペース的にも余裕のできたフライ上部に吊り物や照明が増設され、これまで以上にオペラ、バレエにも十分対応できる設備となり、開館以来、舞台反射板が原因であった音楽とオペラ、バレエの両立の難しさという課題がここでやっと解決したのである。

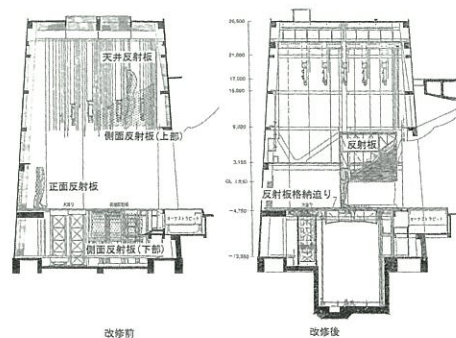


図-4 舞台音響反射板の収納

◆東京文化会館大ホールの音響特性、響きについて

開館以来、東京文化会館大ホールは在京オーケストラをはじめ、来日オーケストラ、演奏家の舞台として安定した評価をうけてきた。しかし、定期公演会場が日比谷公会堂からこの大ホールに移ったとき、一部のオーケストラメンバーから批判があり、新聞に報道された。(産経新聞昭和36年5月1日夕刊) これは、新しいホールが竣工したとき、あるいは改修したとき、程度の違いはあれ、繰り返される現象である。今日、東京文

化会館大ホールの舞台空間の音響に関しては楽団員から高い評価をうけている。これは、前章で述べたように舞台空間の反射構造と拡散構造によるものである。図-5は会館以来の残響時間の推移を示した図である

サントリーホールをはじめとして、最近のコンサートホールは戦後の室内音響研究の成果をふまえ、初期反射音の時間構造に着目した考えで設計されている。大ホールの外側に傾斜した側壁などは現在の響きの設計理念からは生まれにくい発想といえるであろう。しかし、内側に大きくふくらんだ天井からの反射音が側壁で反射し、現在の室内音響学で好ましいとされる側方からの反射音群を補足していることが、最近のコンピュータシミュレーションで明らかとなった。また、音楽ファンには評判のよい5階席の迫力のある響きは天井から到達している近接反射音であることが明らかとなった。

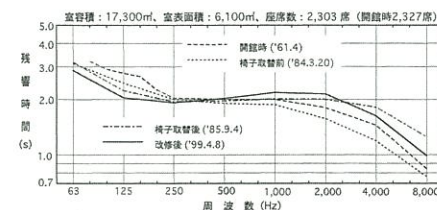


図-5 大ホールの残響時間

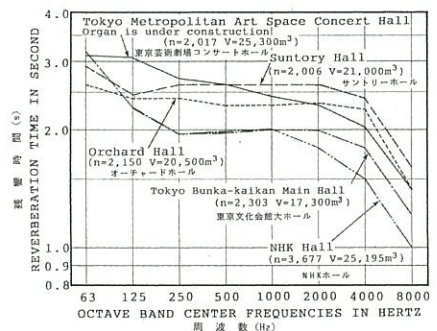


図-6 東京にあるコンサートホールの残響時間特性

図-6は現在の東京首都圏にある大型のコンサートホールの残響時間特性であるが、東京文化会館の大ホールの響きと対照的な響きのホールといえばサントリーホールをあげることができよう。残響時間特性を比べただけでも、この二つのホールの響きの特徴は明らかである。演奏によって、響きの印象は様々であるが、概してサントリーホールの響きは輝

いた音の粒が空間に浮かんでいるような印象である。これに対して、東京文化会館大ホールの響きは重厚な音の東が舞台面から飛び出してくるような印象である。サントリーホールのさわやかな響きに対して、東京文化会館大ホールの響きは暖かさや奥行きを感じる響きともいえるであろう。

小ホールも現在の音響の教科書からは生まれにくい音響空間である。すなわち、側方からの反射音を重視するいわゆるシューボックス型の空間に対して、むしろ、側方反射音をあえて拒否する空間といえることができる。現在、都内の中小ホールの大半が1.5秒前後の響く空間で音の海にひたっているような充足感を感じるのに対して、この小ホールはむしろ、内声部の響きの流れの移り変わりや減衰音のこまやかな響きの変化を聞きとれる空間であるといえよう。音楽と向かいあえる空間を感じるのである。

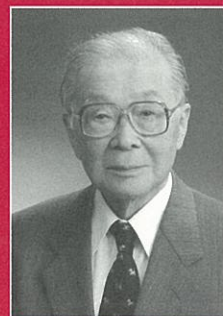
◆あとがき

筆者が東京文化会館の設計に携わったのは1957年である。前川先生の事務所で、先生の事務所のスタッフとともに、形状や材料について検討を行っていたことが記憶にある。当時、ともに設計で机をならべ、工事現場を駆け巡っていた方が多くが他界された。また、開館後、4月の桜の季節には前川先生を中心に関係者一同が4階の会議室に集まり旧交を温めていた。写真-3は昭和46年4月8日、開館10周年記念に開催された集いの一場面である。しかし、これもいつの間になくなった。しかし、この東京文化会館は今日でも依然と公園口に根をはっている。細かな装いの変化はあったが、大小ホールとも、空間もその響きも50年前とかわらず、限りある人の世の移り変わりをこえて音楽の殿堂として存在している。東京文化会館は永遠に歩み続けることであろう。



写真-3

※写真中央起立しているのは当時の鈴木館長。館長から奥へ故前川國男氏。写真の一番手前が故牧田康雄氏。



永田 穂 Minoru Nagata

株式会社永田音響設計
取締役特別顧問
工学博士 技術士(応用理学)

1924年福岡県出身。1949年東京大学第1工学部計測工学科卒業。NHKに採用、放送技術研究所勤務。1971年6月まで音響研究部在籍、その間、西ドイツ留学。旧NHKホール、東京文化会館、国立劇場などの音響設計を担当。1971年7月現在の永田音響設計を創設。石橋メモリアルホール、サントリーホール、東京芸術劇場、紀尾井ホール大賀ホールなどの音響設計を担当。音楽関連の業務としては日本オルガン研究会会長を1期勤める。講師歴として、武蔵野音楽大学、聖徳大学、同志社女子大学音楽学科にて講師を歴任。現在、上野学園大学にて音響学理学を担当、今日に至る。著作に「静けさよい音よい響き(彰国社)」、建築の音響設計(オーム社)ほか。昭和63年度日本建築学会賞、平成13年新日録音楽賞受賞

マエストロ 秋の東京文化会館を彩る名匠・巨匠たち



ジャック・デラコート

10月に東京二期会「蝶々夫人」を指揮するのは、バイエルン州立歌劇場やドレスデン州立歌劇場など、世界の第一線で活躍するジャック・デラコート。日本でも新国立劇場「カルメン」を指揮するなど、度々登場しています。オペラを知り尽くしたベテランが若手中心のキャストをどのように引っ張っていくのか興味は尽きません。(10月9～12日)



パーヴォ・ヤルヴィ

父がネーヴェ・ヤルヴィ、弟がクリスチャン・ヤルヴィという音楽一家の中でも、現在最も活躍しているパーヴォ・ヤルヴィは音楽監督を務めるシンシナティ交響楽団と来日。並行してドイツ・カンマー・フィルハーモニー管弦楽団の芸術監督やフランクフルト放送交響楽団の音楽監督を務めており、さらに2010年より国立管弦楽団の音楽監督に就任するなど、今や世界の第一線で活躍する注目の指揮者です。(10月27日)



エリアフ・インバル

東京都交響楽団のプリンシパル・コンダクターに昨年就任したエリアフ・インバルが11月の定期に登場、ブルックナーの交響曲第5番を指揮します。また、来年3月には同じ作曲家の交響曲第8番を演奏。なお、サントリーホールではマーラーの交響曲第4番を11月に、第3番を3月に取り上げます。(11月24日)



ワレリー・ゲルギエフ

世界で最も忙しい指揮者、それはワレリー・ゲルギエフかもしれません。マリンスキー歌劇場管弦楽団と来日しコンサートを各地で行いますが、その後、同時期に来日中のマリンスキー・バレエの「イワンと仔馬」ではこのコンビがオーケストラ・ピットに入ります。なお、ゲルギエフが指揮するのは8日のみで、9日は違う指揮者です。(12月8日)



ゴロー・ベルク

近年、クリスマスに当館でベートーヴェンの交響曲第9番を演奏する東京都交響楽団。今年はゴロー・ベルクが指揮します。1968年ドイツのワイマール生まれで、ドイツの歌劇場でキャリアを築いてきました。日本でもオーケストラやオペラを指揮していますが、都響とは初共演となります。(12月25日)



オレグ・カエターニ

東京都交響楽団の10月定期を指揮するのはオレグ・カエターニ。かつて岩城宏之(1932～2006)が長期間首席指揮者(1974～87。87年から終身桂冠指揮者)を務めたメルボルン交響楽団の現在の首席指揮者及び芸術監督です。都響との共演は初めてですが、数々の客演で培った経験がどのように発揮されるのでしょうか。(10月23日)



トゥガン・ソヒエフ

トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団を指揮するトゥガン・ソヒエフの名前を初めて聞く人も多いのではないのでしょうか。1977年生まれで、25歳でこのオーケストラの首席客演指揮者/ミュージック・アドバイザーに就任、2008年からは音楽監督として活躍しており、同年NHK交響楽団を指揮して絶賛された期待の若手指揮者です。(11月9日)



ヘルベルト・ブロムシュテット

NHK交響楽団の名譽指揮者でお馴染みのヘルベルト・ブロムシュテット、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団を率いて当館で久しぶりの演奏会です。1927年生まれで今年82歳。この秋に登場する指揮者の中では最長老です。名シェフがドヴォルザークの名曲中の名曲をどのように味付けるのでしょうか。(11月25日)



ジェームズ・デプリースト

東京都交響楽団の常任指揮者を2005年から08年まで務めたジェームズ・デプリーストが常任指揮者退任後初めて登場します。デプリーストの後任(肩書は異なりますが)のエリアフ・インバルも先述のとおりブルックナーの交響曲第5番を演奏しますが、デプリーストもメインに選んだのはブルックナー。交響曲第7番を指揮します。(12月16日)



小林研一郎

2003年にスタートし、今では大晦日恒例となったベートーヴェンの全交響曲連続演奏会。05年はオペラの公演準備のため東京芸術劇場での開催となりましたが、それ以外は東京文化会館で約10～11時間の公演が行われています。03年と06年は複数の指揮者による演奏となりましたが、04・05年は岩城宏之が一人で全曲指揮し大きな話題となりました。今年は07・08年に引き続き、小林研一郎が一人で振ります。(12月31日～1月1日)

東京文化会館青少年のための舞台芸術体験プログラム

東京文化会館では1961年4月の開館以来、国内外のトップレベルのオペラ、バレエ、オーケストラ公演等が連日行われています。東京文化会館で行われる公演の多くは、オペラ・バレエ等舞台公演では主に前日(もしくはそれ以前)に、オーケストラ等音楽公演では当日に本番と同じ形でリハーサルを行います。

今回の企画は当館をご利用いただく主催者の皆様の協力を得て、

この最終リハーサルを青少年の皆様に公開するものです。対象となるのは高校生から25歳以下の学生で、2010年以降の公演では中学生まで対象を広げます。

本年度は10回+プレ企画2回、オペラ・バレエ・管弦楽(吹奏楽)と幅広い、当館ならではのラインナップとなりました。すでに終了したものの、募集を終了したものも含めて、今年度のプログラムを紹介します。

6月25日(木)〔プレ企画〕
ポリシヨイ・オペラ「エフゲニー・オネーギン」
バックステージ・ツアー
(本公演主催：株式会社ジャパン・アーツ)

8月26日(水)
シエナ・ウィンド・オーケストラ第30回定期演奏会
(本公演主催：一般財団法人ジャパン・シンフォニック・ウィンド)【受付終了】
指揮：佐渡裕/パーカッション：池上英樹(ゲスト)

9月24日(木)
東京バレエ団「ラ・バヤデール」
(本公演主催：財団法人日本舞台芸術振興会)【受付中/9月3日締切】
指揮：ベンジャミン・ホープ/振付：演出：ナタリア・マカロワ
管弦楽：東京シティフィルハーモニック管弦楽団

10月23日(金)
東京都交響楽団第686回定期演奏会
(本公演主催：財団法人東京都交響楽団)【9月1日受付開始】
指揮：オレグ・カエターニ/ピアノ：カティア・スカナヴィ

2010年2月16日(火)
東京二期会「オテロ」
(本公演主催：財団法人東京二期会 他)【1月受付開始予定】
指揮：ロベルト・リッツィ=プリニョーリ/演出：白井晃/管弦楽：東京都交響楽団
合唱：二期会合唱団

2010年3月上旬
ニーナ・アナニアシヴィリ&グルジア国立バレエ
「ジゼル」または「ロミオとジュリエット」
(本公演主催：株式会社ジャパン・アーツ)【1月受付開始予定】

7月6日(月)〔プレ企画〕
東京文化会館《響の森》vol.26～中村絢子ピアノ協奏曲の夕べ
公開リハーサル
(本公演主催：東京文化会館(財団法人東京都歴史文化財団))
指揮：大友直人/ピアノ：中村絢子/管弦楽：東京都交響楽団

9月5日(土)
ミラノ・スカラ座「ドン・カルロ」
(本公演主催：財団法人日本舞台芸術振興会 他)【受付中/8月21日締切】
指揮：ダニエレ・ガッティ/演出：シュテファン・ブラウンシュヴァイク

10月8日(木)
東京二期会「蝶々夫人」
(本公演主催：財団法人東京二期会 他)【9月1日受付開始】
指揮：ジャック・デラコート/演出：栗山昌良/管弦楽：読売日本交響楽団
合唱：二期会合唱団/出演：文屋小百合(蝶々夫人)、小原啓楼(ピンカートン)、久保和範(シャープレス)、小林由佳(スズキ)

12月16日(水)
東京都交響楽団第690回定期演奏会
(本公演主催：財団法人東京都交響楽団)【9月1日受付開始】
指揮：ジェームズ・デプリースト/ヴァイオリン：イザベル・ファウスト

2010年2月下旬
東京バレエ団「シルヴィア」
(本公演主催：財団法人日本舞台芸術振興会)【1月受付開始予定】
振付：フレデリック・アシュトン/指揮：ベンジャミン・ホープ
管弦楽：東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団

2010年3月中旬
パリ・オペラ座バレエ団「シンデレラ」または「ジゼル」
(本公演主催：財団法人日本舞台芸術振興会)【1月受付開始予定】

ジャンル、団体とも非常に多彩です。これを機会に、様々な舞台芸術が持つ魅力を大いに味わって、普段から劇場で楽しい時間を過ごして頂きたいと思えます。

申込は当館ホームページ(パソコン版<http://t-bunka.jp/>、携帯版<http://t-bunka.jp/m/>)からしていただけます。初回到員登録をして、その後公演毎にお申込ください。抽選を行った上で、当選者はセブンイレブンでチケットを受け

取ります。なお、その際に発券手数料として350円お支払いいただきます。

また、公演をよりお楽しみいただくための共通冊子を作成するほか、公演によっては開演前に解説などを行います。この内容を充実させることにより、普段舞台に接することの少ない方にも、スムーズに「劇場文化」に触れていただけるようにしてまいります。



1 TOKYO MUSIC CIRCLE in 東京文化会館
1日(木) 19:00
岡本知高(ソプラニスタ) TOKYO FM少年合唱団 他

2 都民劇場音楽サークル第570回定期公演
パウル・バドゥラ=スコダ ピアノ・リサイタル
2日(金) 19:00
ハイドン:「皇帝賛歌」による変奏曲

3 2009ピアノ協奏曲の午後
3日(土) 14:00
平井哲三郎(指揮) 日本ニューフィルハーモニック管弦楽団

9 東京二期会オペラ劇場「蝶々夫人」
(ブッチーニ作曲・全3幕・字幕付原語(イタリア語)上演)
9日(金) 18:30 10日(土) 14:00 11日(日) 14:00

12 8日(木)
青少年のための舞台芸術体験プログラム
「蝶々夫人」公開リハーサル

13 森麻季&仲道都代デュオ・コンサート
13日(火) 19:00
森麻季(S) 仲道都代(Pf)

18 都民交響楽団 第108回定期演奏会
18日(日) 14:00
横島勝人(指揮)

22 キエフ国立フィルハーモニー交響楽団&イヴリー・ギトリス
22日(木) 19:00
ニコライ・ジャジュラ(指揮) イヴリー・ギトリス(Vn)

23 東京都交響楽団 第686回定期演奏会
23日(金) 19:00
オレグ・カエターニ(指揮) カティア・スカナヴィ(Pf)

24 第53回ダークダックスリサイタル
24日(土) 15:00
ダークダックス 白石哲也&ダックリングス・グループ

25 新都民合唱団 第72回定期演奏会
25日(日) 14:00
阿部 純(指揮) 東京ニューシティ管弦楽団

27 都民劇場音楽サークル 第571回定期公演
シンシナティ交響楽団
27日(火) 19:00
バーヴォ・ヤルヴィ(指揮) クリスチャン・ツィメルマン(Pf)

28 プラハ国立歌劇場「アイダ」
(ヴェルディ作曲・全4幕・字幕付原語(イタリア語)上演)
28日(水) 18:30 30日(金) 18:30 31日(土) 17:00

1 19:00 津田理子ピアノリサイタル
J.S.バッハ「プレリュード」ニッポカッタ アダージョとフーガ

2 19:00 岡本愛子ピアノリサイタル~演奏活動30周年記念
ブランク:常曲 ラヴェル:亡き王女のためのパヴァーヌ

3 19:00 岡田博美ピアノリサイタル ふらんす plus 2009
シューベルト:4つの即興曲、幻想曲ハ長調(さすらい人幻想曲)

4 14:00 トリオ・ミニストレル コンサートツアー2009 東京公演
木野雅之(Vn) 小川剛一郎(Vc) 北住淳(Pf)

5 19:00 ウィリアム・ウー記念公演
アリナ・ウー(Pf) 斎藤和久(Vn) 中村潤(Vc)

6 19:00 松本和将ピアノリサイタル 生誕200年記念 ショパンとの対峙 第1章 詩り高き魂
ショパン:スケルツォ第1番、2つのワルツ第9番

7 19:00 安井耕一ピアノリサイタル
ベートーヴェン:ロンド op.51-2 モーツァルト:幻想曲 KV.475、ソナタ KV.457

8 19:00 熊本マリピアノリサイタル「パッパ〜モンボウ魅惑の夜」
モンボウ:エキスポの思い出、魅惑 J.S.バッハ:ヘス:主よ、人の望みの喜びよ

9 11:00~12:00 東京文化会館モーニングコンサートVol.30
藤原功次郎(Tb) 原田恭子(Pf)

10 14:00 第7回本間一夫記念日本点字図書館チャリティコンサート
武久源造リサイタル 秋に聴きたい鍵盤の名曲~チェンバロからピアノへ

11 13:00 秋吉敏子ピアノソロコンサート2009
LONG YELLOW ROAD THE VILLAGE REPOSE FEAST IN MILANO

12 19:30 セイコーリー「新しい愛を歌う」
セイコーリー(S) 福田あき子(Pf)

13 19:00 日本合唱協会第167回定期演奏会「ロマン派の歌と絵画」
久住祐実男(指揮) 新田境子(Pf) 小田裕之(Pf)

14 19:00 足立ギター室内合奏団演奏会
足立正明(指揮) 岩井きみ子 西田睦美 茂木信明 西村雄太 星野輝久

15 19:00 野平一郎ピアノリサイタル フランス近・現代の音楽
ドビュッシー:子供の領分、前奏曲集 第2巻より(抜粋)

16 19:00 辛島輝彦ピアノリサイタル シューベルトのタバ
シューベルト:ソナタ op.122 D.568 ウィーンの名婦人のレントラー op.67 D.734

17 14:00 日本モーツァルト協会10月例会「ヨーゼフ・ハイドンとともに」
朔川愛(Pf) 江口有香(指揮、コンサートマスター) トウキョウ・モーツァルトプレイヤーズ

18 14:00 ルシア塩満アルバ・アコースティックコンサート
ルシア塩満(アルバ) 宮川久志 高山直敏 高橋マサヒロ

15 19:00 野平一郎ピアノリサイタル フランス近・現代の音楽
ドビュッシー:子供の領分、前奏曲集 第2巻より(抜粋)

16 19:00 辛島輝彦ピアノリサイタル シューベルトのタバ
シューベルト:ソナタ op.122 D.568 ウィーンの名婦人のレントラー op.67 D.734

17 14:00 日本モーツァルト協会10月例会「ヨーゼフ・ハイドンとともに」
朔川愛(Pf) 江口有香(指揮、コンサートマスター) トウキョウ・モーツァルトプレイヤーズ

18 14:00 ルシア塩満アルバ・アコースティックコンサート
ルシア塩満(アルバ) 宮川久志 高山直敏 高橋マサヒロ

19 19:00 田大成テノールリサイタル
田大成(T) 一ノ瀬トニカ(Pf)

20 休館日

21 19:00 東京ハルモニア室内オーケストラ第39回定期演奏会
エヴァルト・ダネル(指揮、Vn) 西山昌子(Vn) 平岡陽子(Vn)

22 19:00 中村静香ヴァイオリン&ヴィオラリサイタル
中村静香(Vn, Va) 東誠三(Pf)

23 上野中央通り商店会 presents
東京文化会館 オペラBOX 24日(土) 14:00

24 彌勒忠史(演出)
園光ともこ(S) 加賀ひとみ(Ms) 龍進一郎(Br) 村田ゆう子(S)

25 19:00 音楽博物館 presents アンサンブル・アデッソ
名倉淑子(Vn) 前田尚徳(Vn) 岡田伸夫(Va) 木越洋(Vc)

26 19:00 デュオ・アドモニー2台ピアノリサイタル
金沢多美(Pf) ユヴァル・アドモニー(Pf)

27 19:00 富永佐恵子チェロリサイタル
富永佐恵子(Vc) 佐々木京子(Pf) 荒瀬子(Vc)

28 19:00 新作歌劇2009 歌劇「金剛殿王」室内楽版
大倉由紀枝 岸本力 田中誠 蓮井求道 遠藤千晶

29 19:00 三船優子ピアノリサイタル デビュー20周年記念
バーバー:バラード、遠足 プラムス:チェロソナタ第1番

30 19:00 東京混声合唱団第219回定期演奏会
松原千振(指揮) ジョン・ワッツェンバーン(指揮)

31 15:00 二期会研究会 駅伝コンサート
イタリアオペラ研究会 ロシア東欧オペラ研究会

1 関孝弘ピアノリサイタル

1日(日) 14:00

■ヴェッキアート:夜のヴェローナ(本邦初演)ノスタルジア()



関孝弘

3 熊川哲也Kバレエカンパニー10周年記念全国ツアー 新作バレエ「ロミオとジュリエット」

3日(火・祝) 15:00 4日(水) 18:30 6日(金) 18:30 7日(土) 14:00/18:30 8日(日) 14:00

■福田一雄/井田雄大(指揮) シアターオーケストラ



熊川哲也

9 都民劇場音楽サークル 第572回定期公演 トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団

9日(月) 19:00

■トゥガン・ソビエフ(指揮) 諏訪内品子(Vn)



トゥガン・ソビエフ

諏訪内品子

10 東京文化会館バックステージツアー

10日(火) 10:30/14:30

■参加費(保険料含む) 500 ※詳細は6ページをご覧ください。

13 中国歌劇「ムーラン」

13日(金) 18:30予定

■ロイヤル・チェンバー・オーケストラ

14 冷泉家 王朝の和歌守展開催記念 七夕の宴「乞巧奠」～京都・冷泉家の雅～

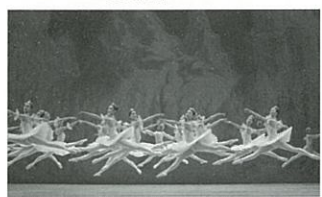
14日(土) 15:00

■蹴鞠保存会(蹴鞠) 絲竹会(雅楽) 冷泉家門人(和歌披露/流れの座)

20 東京バレエ団創立45周年記念公演 「くみ割り人形」全2幕

20日(金) 19:00 21日(土) 18:00 22日(日) 15:00

■デヴィッド・ガーフォース(指揮) 東京ニューシティ管弦楽団



「くみ割り人形」

©Kiyonori Hasegawa

21 東京バレエ団創立45周年記念公演 「マイ・キャストシリーズ」全2幕

21日(土) 13:30

■デヴィッド・ガーフォース(指揮) 東京ニューシティ管弦楽団

23 藤原歌劇団 創立75周年記念オペラコンサート

23日(月・祝) 14:00

■菊池彦典(指揮) 東京フィルハーモニー交響楽団



林康子

出口正子

堀内康雄

24 東京都交響楽団 第689回定期演奏会

24日(火) 19:00

■エリアフ・インバル(指揮) ブルックナー:交響曲第5番



エリアフ・インバル

25 チェコ・フィルハーモニー管弦楽団

25日(水) 19:00

■ヘルベルト・ブロンシュテット(指揮) ヘルベルト・ブロンシュテット



ヘルベルト・ブロンシュテット

26 都民劇場音楽サークル 第573回定期公演 イェフィム・プロンフマン ピアノリサイタル

26日(木) 19:00

■ベートーヴェン:創作主題による32の変奏曲



イェフィム・プロンフマン

27 マリンスキー・バレエ

「白鳥の湖」(全3幕) 27日(金) 18:30 29日(日) 15:00 30日(月) 18:30

■ミハイル・アグレスト(指揮) 東京ニューシティ管弦楽団



「白鳥の湖」

©瀬戸勇美

14:00 池本純子 モーツァルト/ピアノ協奏曲の午後・連続演奏Ⅲ

■池本純子(Pf) 古典音楽協会室内合奏団

2 19:00 第23回岸本カ・バスリサイタル ブーシキン生誕210年

3 14:00 スーパー二胡奏者 許可 西洋と東洋の出会い〜美しい二胡の響き

3 19:15 イヴリー・ギトリス ヴァイオリンリサイタル

4 19:00 奥村愛ヴァイオリンリサイタル〜音楽でつづる世界の風景〜

5 19:00 日本フォーレ協会創立20周年記念 フォーレ全歌曲連続演奏Ⅱ

6 19:00 レクチャーコンサート「作曲家の挑戦」シリーズ 第3回ピアノ300年の旅

7 14:00 ミュージック・イン・スタイル 岩崎淑 シリーズVol.33 ピアノとチェロの夕べ

8 19:00 大萩康司ギターリサイタル

9 14:00 宮沢明子ピアノリサイタル

10 19:00 見麗子ピアノリサイタル ベートーヴェン・ピアノソナタ全曲演奏会vol.8

11 19:00 モンノロ、アンサンブルの輝き

12 19:00 カルテット・エクセルシオ 第18回東京定期演奏会

13 11:00~12:00 東京文化会館モーニングコンサートVol.31

14 18:45 日本モーツァルト協会11月例会「ヴァイオリンソナタを聴く」

15 14:00 平尾はるなはピアノコスモス 2009

16 19:00 松山元ピアノリサイタル

17 14:00 平尾はるなはピアノコスモス 2009

18 19:00 倉澤華ピアノリサイタル

19 14:00 平尾はるなはピアノコスモス 2009

20 19:00 倉澤華ピアノリサイタル

21 14:00 平尾はるなはピアノコスモス 2009

22 19:00 倉澤華ピアノリサイタル

23 14:00 平尾はるなはピアノコスモス 2009

24 19:00 倉澤華ピアノリサイタル

25 14:00 平尾はるなはピアノコスモス 2009

26 19:00 倉澤華ピアノリサイタル

27 14:00 平尾はるなはピアノコスモス 2009

28 19:00 倉澤華ピアノリサイタル

29 14:00 平尾はるなはピアノコスモス 2009

30 19:00 倉澤華ピアノリサイタル

15 日本テレマン協会 定期演奏会 第191回公演

16 19:00 木越洋の立って弾くチェロ Vol.11〜ベートーヴェン・チェロソナタ全曲演奏会 I〜

17 19:00 青木紀久子室内楽リサイタル

18 19:00 中井恒仁のブラームス ピアノ全曲(ソロ・連弾・2台) シリーズ 第5回

19 19:00 第13回相賀賢一朗ヴァイオリンリサイタル 2009

20 19:00 東京文化会館プレミアムコンサート ブラジャー・クワレテット

21 第52回東京国際ギターコンクール及び開催記念コンサート

22 21日(土) 11:00 第2次予選

23 14:00 演進コンサート215 斎藤龍二ピアノリサイタル

24 19:00 北川暎子ピアノリサイタル

25 19:00 "IMAGINATION" Vol.9 稲田潤子ピアノリサイタル

26 19:00 サイ・イェン・ソプラノコンサート 世界の名曲とオペラ・アリア〜もみじの夕べ〜

27 19:00 山崎孝子ピアノリサイタル バルトーク・ペーラ(子供のために) [全79曲]

28 18:00 カレファックス・リード・クインテット

29 14:00 平尾はるなはピアノコスモス 2009

30 19:00 倉澤華ピアノリサイタル

休館日

1 マリンスキー・バレエ
【白鳥の湖】(全3幕)
1日(火) 18:30
【眠れる森の美女】(全3幕 プロローグ・アポテオース付)
3日(木) 18:30 4日(金) 18:30 5日(土) 13:00

【イワンと仔馬】(全2幕 ラトマンスキー新演出版)
8日(火) 19:00 9日(水) 19:00
【オールスター・ガラ】 10日(木) 19:00 11日(金) 19:00



12 中村絃子 デビュー50周年記念リサイタル
12日(土) 18:00
【1961年12月東京文化会館でのデビュー初リサイタル 再現プログラム】



16 東京都交響楽団 第690回定期演奏会
16日(水) 19:00
【ジェイムズ・デプリースト(指揮)】



18 シルヴィ・ギエム&アクラム・カーン・カンパニー「聖なる怪物たち」
18日(金) 19:00 19日(土) 15:00
20日(日) 15:00



21 西本智実指揮/ベートーヴェン「第九」
21日(月) 19:00
【西本智実(指揮) 東京交響楽団 東響コーラス】



22 第59回メサイア演奏会
22日(火) 18:30
【小泉ひろし(指揮) 藝大フィルハーモニア】

23 東京文化会館・世界のクリスマスコンサート
23日(水・祝) 19:00
【(第1部)日本航空 国境なき合唱団】

24 亀淵友香&VOJA~Christmas Gospel Night 2009~
24日(木) 18:30
【亀淵友香&VOJA他】

25 都響スペシャル「第九」
25日(金) 19:00
【コロ・ベルク(指揮) 東京都交響楽団 二期会合唱団】



26 上智大学管弦楽団 第89回定期演奏会
26日(土) 19:00
【沙澤安彦(指揮) 上智大学管弦楽団】

27 第116回 2009年東京交響「第九」演奏会
27日(日) 14:00
【内藤 彰(指揮) 東京交響楽団 東京交響第九合唱団】

31 ベートーヴェンは凄い!全交響曲連続演奏会2009
31日(木) 14:00 ※終演24:45予定
【小林研一郎(指揮)】



1 19:00 館野泉ピアノリサイタル2009 ~彼ののための音楽を彼が弾くVol.3~
【エスカンデ:ディヴェルティメント(世界初演)】

2 19:00 東京シフェニエッタ第26回定期演奏会「室内オーケストラの領域 個性との対峙」
【板倉康明(指揮)】

3 19:00 フォーレ四重奏団演奏会
【エリカ・ゲルトゼッター(Vn) サージャ・フレッシング(Va)】

4 11:00 「創造・楽奏らいぶ」Vol.10 -音楽家と落語家のコラボレーション-
【瀬川健昇 スペシオザ★トリオ】

5 18:00 河野克典バロックリサイタル~歌の旅Vol.1~
【河野克典(Br) 野平一朗(Pf)】

6 14:00 プレイアード五重奏団結成30周年記念リサイタル
【吉岡孝悦(Mar) 逸藤剛史(FI)】

7 19:00 建孝三ギターリサイタル
【J.S.バハ:パッサカリア ヴァルロボス:ヴァルス・ショロ】

8 19:00 木越洋の立つて弾くチェロvol.12~J.S.バハ・無伴奏チェロ組曲全曲演奏会~
【J.S.バハ・無伴奏チェロ組曲(全曲)】

9 19:00 日本合唱協会第168回定期演奏会
【花井哲郎(指揮) 指川達夫(監修)】

10 11:00~12:00 東京文化会館モーニングコンサートVol.32
【吉川日奈子(S) 吉川日奈子(Pf)】

東京文化会館舞臺芸術創造プログラム 「隅田川」(再演)&「万葉集」(新作)
11日(金) 19:00 12日(土) 18:00

隅田川(音楽:千住明、台本:松本隆)
万葉集(音楽:千住明、台本:篠まどか)
【大友直人(指揮)】

13 14:00 植田克己作曲家シリーズ 第6回 ベートーヴェンとウェーバーの室内楽曲
【植田克己(Pf) 山本正治(Cl)】

14 15 休館日

16 18:45 日本モーツァルト協会12月例会「ロンドンの師クリスティアン・バッハ」
【立花千春(FI) 山田武彦(Pf)】

17 19:00 齋藤行クラリネットリサイタル<第25回>
【齋藤行(Cl) 藤井一興(Pf)】

18 19:00 東京混声合唱団第220回定期演奏会
【ヴォルフガング・マウラー(指揮)】

19 14:00 演進コンサート216 豊永美恵クラリネットリサイタル
【豊永美恵(Cl) 和田さやか(Pf)】

19:10 西畑正三フルートリサイタルVol.15 15周年記念演奏会 Amabile
【西畑正三(Fl) 宮崎和子(Pf)】

20 14:00 クリスマス・スペシャル・コンサート「浦山純子 with Friends」Vol.1
【浦山純子(Pf) 伊藤亮太郎(Vn)】

21 19:00 東京メトロポリタン・ロンドン・ボーンホルム・エルツェー第3回レギュラーコンサート
【小田桐寛之(Tb) 古賀慎治(Tp)】

22 19:00 東京文化会館プレミアムコンサート クラシカル・プレイヤーズ東京 バロックdeクリスマス
【有田正広(FI&音楽監督)】

23 14:00 小林道夫チェンバロ演奏会
【J.S.バハ:ゴルトベルク変奏曲】

19:00 ブルーム・カルテット&アンサンブル
【森彩香(Vn) 源希(Vn)】

24 18:30 ジャン・ジャンホフ(姜建華)二胡リサイタル
【ジャン・ジャンホフ(二胡) 他】

25 19:00 田中淑恵メゾ・ソプラノリサイタル
【田中淑恵(Ms) 中井恒仁(Pf)】

26 18:00 和波孝禧クリスマス・パッサカリアシリーズⅧ
【J.S.バハ:無伴奏ヴァイオリンパルティータ第1番、第3番】

27 14:00 橋本京子ピアノリサイタル
【シューベルト:4つの即興曲 op.142】

19:00 飯塚優子が贈るオペラハイライト
【飯塚優子(S) 平良光代(S)】

28 29 30 休館日

31 14:00 ベートーヴェン弦楽四重奏曲9曲演奏会
【ルーヴェン弦楽四重奏団 カルテット・エクセルソ】

モーニングコンサートVol.31-32

Vol.31・32よりプログラム曲の音源資料をご紹介します。

- 1 ■Vol.31 11/13 上村文乃(チェロ)
●CD <請求記号 3H2.15>

カサド/愛の言葉
シューマン/アダージョとアレグロ Op.70 ほか
■演奏/新倉瞳(チェロ) ほか
■発売/東芝EMI ●発売番号:TOCE-55854

- 2 ■Vol.32 12/9 吉川日奈子(ソプラノ)
●LP <請求記号 E63.7>

ブッチーニ/歌劇「ラ・ボエーム」より「私が街を歩くと」 ほか
■演奏/ヨランダ・メネグツェル(ムゼッターソプラノ) ほか
■発売/日本グラモフォン ●発売番号:MG 2178

東京文化会館オペラBOX

資料室からは、全編上演されるオペラの音源資料をご紹介します。

- 3 ●LP <請求記号 M98.6>

歌劇「バステアンとバスティエヌ」(モーツァルト作曲)
■出演/ワルター・ベリー(コラ)、クラーク・H・アーンショー(バスティエヌ)、
エディット・マティス(バスティエヌ)
■演奏/レオポルド・ハーガー指揮 サルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団
■発売/ティチレコード ●発売番号:KUX-3020-B

レクチャーコンサート「作曲家の挑戦」シリーズ
第3回 ピアノ300年の旅

第3回ではモーツァルト作品などで高い評価を受けるピアニスト、菊池洋子がピアノの歴史をたどり、その魅力に迫ります。資料室からは菊池洋子の音源資料と、ピアノの歴史についての映像資料をご紹介します。

- 4 ●CD <請求記号 5J7.35>

「モーツァルト:ピアノ・ソナタ集」
モーツァルト/ピアノ・ソナタ第1番ハ長調 K.279 ほか
■演奏/菊池洋子(ピアノ)
■発売/AVEX ENTERTAINMENT ●発売番号:AVCL-25396

- 5 ●DVD <請求記号 DVD959>

「ピアノ、その300年の歴史」
*300年間にわたるピアノ発展の歴史を、その改良にかかわった職人たちが、楽器を愛した音楽家たちとの関わりを紹介しながら描く歴史ドキュメンタリー
■発売/アーティストハウスエンタテインメント ●発売番号:AHBC-10001

東京文化会館プレミアムコンサート

ブラジャーク・クワルテットの音源資料をご紹介します。

- 6 ●CD <請求記号 2G5.28>

シェーンベルク/弦楽四重奏曲第1番二短調 Op.7 ほか
■演奏/ブラジャーク・クワルテット
■発売/キングインターナショナル ●発売番号:KKCC-286

●資料室ご案内

東京文化会館4Fには、音楽資料室があります。楽譜、CD・LP、映像、図書など、クラシック音楽を中心とした資料の閲覧・視聴ができます。初回は、お名前、住所を確認できるものをお持ちください。電話での資料に関するご質問にもお答えしております(日・祝日を除く9~17時)。インターネットでも所蔵資料を検索することができます。TEL:03-3828-2111(代表) URL:http://t-bunka.opac.jp/index.html

大ホールの公演から

10月に来日するブラハ国立歌劇場と12月に来日するマリンスキー・バレエのプログラム曲の映像資料をご紹介します。

- 7 ●LD <請求記号 ALD107-108>

歌劇「アイダ 全四幕」(ヴェルディ作曲)
■台本/アントニオ・ギスランツォーニ
■出演/アルフレド・ザナッツォ(国王)、フィオレンツァ・コッソット(アムネリス)、マリア・キアラ(アイダ)、ニコラ・マルティヌッチ(ラダメス)
■演奏/アントン・グァダーニョ指揮、アレナ・ディ・ヴェローナ ほか
■発売/パイオニア ●発売番号:MC071-45PA

- 8 ●DVD <請求記号 DVD 665>

バレエ「せむしの仔馬」(シCHEDRIN作曲)
■脚本・振付/アレクサンドル・ラドゥンスキー
■出演/マイヤ・プリセツカヤ(女王)、ウラジーミル・ワシーリエフ(イワン) ほか
■演奏/アリギス・ジュライチス指揮 ポリショイ劇場オーケストラ
■発売/アイ・ヴィー・シー ●発売番号:IVCF-5147

小ホールの演奏会から

小ホールで行われるコンサートの中から、次の4点をご紹介します。

- 9 ■武久源造リサイタル
●CD <請求記号 3J8.12>

「鍵盤音楽の領域 Vol.5 “バロックの終焉”」
■演奏/武久源造(チェンバロ)
■発売/コジマ録音 ●発売番号:ALCD-1022

- 10 ■相曾賢一朗ヴァイオリンリサイタル
●CD <請求記号 3G6.21>

「フランスヴァイオリン音楽の精華」
■演奏/相曾賢一朗(ヴァイオリン)、サイモン・クロフォード=フィリップス(ピアノ)
■発売/オクタヴィア・レコード ●発売番号:OVEX-00001

- 11 ■マチュー・デュフォー フルート・リサイタル
●CD <請求記号 1H7.46>

ヴィドール/フルートとピアノのための組曲 Op.34
マルティヌー/フルート・ソナタ第1番(H.306) ほか
■演奏/ペーター=ルーカス・グラーフ(フルート)、ベルント・グレンザー(ピアノ)
■発売/キングレコード ●発売番号:KICC 7251

- 12 ■東京混声合唱団第220回定期演奏会
●LP <請求記号 N122.7>

ブーランク/クリスマスのための4つのモテット ほか
■演奏/ジョン・オールディス指揮 グループ・ヴォカール・ド・フランス(合唱)
■発売/東芝EMI ●発売番号:EAC-90085

※当資料室には、この他にもさまざまな資料がありますので、是非ご利用ください。

●開室時間

火曜~土曜 13時~20時(コピー受付 18時30分まで)
日曜・祝日 13時~17時(コピー受付 16時まで)

●休室日

◆毎週月曜
*9月21日、10月12日、11月23日は祝日ですが、月曜のため休室となります。
◆保守日等(9月28-29日、10月19-21日、11月11-12日、12月14-15日)
◆年末年始(12月28日~1月4日)
詳しくは、ホームページのカレンダーもご覧ください。
URL:http://www.t-bunka.jp/library/index.html

「芸術の秋」到来!都響の注目公演を是非この機会に

少しずつ秋の気配が感じられるようになりました。音脈読者のみなさま、いかがお過ごしでしょうか? 東京都交響楽団ではこの秋から年末年始にかけてオススメ公演が目白押しです。定期演奏会では、都響プリンスバル・コンダクターのエアラフ・インバルと、前前任指揮者のジェームズ・デプリーストが大曲ブルックナー、一流のソリストを迎えて贈る協奏曲も必聴です!!

9月~12月の定期演奏会Aシリーズ 各回19時開演 東京文化会館

第685回 9月30日(水) ●好評発売中

指揮/アンドリュウ・リットン ピアノ/パウル・バドゥラ=スコダ
ストラヴィンスキー:サーカスホルカ
モーツァルト:ピアノ協奏曲第24番 八短調
(カデンツァ:パウル・バドゥラ=スコダ作曲版)
ストラヴィンスキー:バレエ音楽「カルタ遊び」
ストラヴィンスキー:バレエ組曲「火の鳥」(1945年版)



第689回 11月24日(火) ●好評発売中(B・C・Ex席完売)

指揮/エアラフ・インバル
ブルックナー:交響曲第5番 変ロ長調



第686回 10月23日(金) ●好評発売中

指揮/オレグ・カエターニ ピアノ/カティア・スカナヴィ
モーツァルト:交響曲第29番 イ長調
プロコフィエフ:ピアノ協奏曲第3番 ハ長調
ショスタコーヴィチ:交響曲第6番 短調



第690回 12月16日(水) ●好評発売中

指揮/ジェームズ・デプリースト ヴァイオリン/イザベル・ファウスト
シューマン:ヴァイオリン協奏曲 二短調
ブルックナー:交響曲第7番 ホ長調



●一回券(11月を除く) S¥6,500 A¥5,500 B¥4,500 C¥3,500 Ex¥1,800
●一回券(11月のみ) S¥7,500 A¥6,500 B¥5,500 C¥4,500 Ex¥2,200
ジュニア(18歳未満)・学生 50%OFF ※(割引対象:A~C席)
シルバーエイジ(65歳以上) 30%OFF 詳細はお問合せください

都響スペシャル「第九」

12月25日(金) 19時開演
指揮/ゴロー・ベルク
ソプラノ/澤田恵美 メゾソプラノ/竹本節子
テノール/望月哲也 バリトン/成田博之
合唱/二期会合唱団
ベートーヴェン:付随音楽「エグモント」序曲
ベートーヴェン:交響曲第9番「合唱付」



S¥8,000 A¥7,000 B¥6,000
C¥5,000 Ex¥2,200
シルバーエイジ(65歳以上・200席限定)
ジュニア(18歳未満)・学生
50%OFF
※Ex席は対象外
東京文化会館主催ニューイヤーコンサートとのセット券割引
については都響ガイドまたは東京文化会館チケットサービス
までお問い合わせください。

◆一年を華やかに締めくくる「第九」演奏会。今年はデッサウ歌劇場の音楽監督を務める若き指揮者ゴロー・ベルクが腕をふるっています。
度重なる共演で都響と深い信頼関係にある二期会合唱団や豪華ソリスト陣の歌声とともに楽しみ下さい。
※12月24日(木)19時開演・東京芸術劇場、12月26日(土)14時開演・サントリーホールも同プログラムでの公演がございます。

●ご予約とお問合せ
【都響ガイド】03-3822-0727 http://www.tmsso.or.jp (ホームページからも予約できます)
月~金/10時~19時 土/10時~17時 日祝休み *主催演奏会開催日は休業または営業時間の変更になります。

音脈35号の東原克行さんによる「東京文化会館と前川國男」は、たいへん興味深く読ませていただきました。前川國男さんによる東京文化会館と神奈川県立音楽堂の2つのホールは、80年代初頭から今日にかけて進化した、音響的にすぐれた、さまざまなホールと比べても、今なお私のもっとも愛するホールです。開館50周年に向けて、いろいろな企画があるということなので、たいへん楽しみに期待しています。

神田 浩

文化会館が50周年を迎える記事。感慨をもって拝見しました。48年前文化会館落成時、柿落し公演で「オペラ夕鶴」をやったと思います。当時中学生でしたが、入場券を持って楽しんでいましたが、あいに風邪の高熱のため行けませんでした。観に行った近所の人が大感激だったと報告してくれました。未だにくやしさを覚えています。

森 謙一郎

都響の定期会員なので、東京文化会館にはよくお邪魔しています。大ホールの両サイドにある、木製レリーフには格別な存在感と木のぬくもり、やさしさを感じています。座る位置によって、レリーフの表情がかわって見えるのもお気に入りとなっています。数年後には、開館50周年を迎えるとはとても思えない斬新な表情を見せてくれます。

さて、今回の音脈冒頭のスタッフ写真には文化会館の思いが込められているように感じました。「これからやるぞ」というメッセージなのでしょう。スタッフの方には、他のホールにはない、細やかなサービス・温かい気持ちを感じています。

大ホール内のクローク前を通ると必ずといっていいほど、クローク内から「いらっしゃいませ!!」と明るく・自然体の「迎える気持ち」を込めていただいた声をかけていただきます。こちらは、せいぜい頭をちょこっと下げるくらいですが、くすぐたくも、つい、嬉しい気持ちになってしまいます。

これは一例ですが、なにげないことでもいつも温かく、かつ、真剣に接してくれる、スタッフの方々は演奏会を聴く上での重要な要素、オケ・指揮者・会場(音響)と並んで一つの要素なのだろうと思います。

演奏会に集中できる環境がなによりも大切だと思います。これ以上のことは望みませんし、これからも自然体のもてなし・温かいサービスの気持ちをもって、接していただければ充分です。よろしくお願いします。

余談ですが、あまりにも好印象だったので勢いで、この5月には友の会にも入会してしまいました。

小林 信男

東京文化会館があと2年で50周年を迎えること、知りませんでした。古さを感じさせない素晴らしいホールだと思います。7/6中村絃子さんの公開リハーサルに行きました。パンツルックの左足のダイナミックな動きにびっくり。演奏会本番でのドレス姿と華麗な演奏からはうかがい知れない秘密を垣間見た気がしました。

平井 敬子

東京文化会館友の会「Club Wa-Wa」のご案内



最新の友の会特典情報【先行発売・割引情報・公演ご招待等】は、東京文化会館ホームページからご覧頂けます。友の会では会報誌Letter Club Wa-Waを月1回発行しています。

■年会費

推奨 ベーシックプラン(ホームページ、メールマガジン) ¥2,100
クラシックプラン(会報誌ご郵送) ¥2,625

■特典内容

- チケット割引販売 5~30%OFF
東京文化会館自主事業(一部公演を除く)をはじめ、東京文化会館が指定する公演のチケットを会員価格でご購入いただけます。
- チケット先行販売
東京文化会館が指定する公演のチケットを一般発売日前に購入いただけます。
- 公演ご招待
東京文化会館が指定する公演に抽選で会員の方をご招待
- 館内のレストラン・ショップの割引販売
東京文化会館内のレストランフォレストィーユとギフトショップで5%割引(一部対象外商品有)
- 広報誌の郵送
東京文化会館で年4回発行する広報誌「音脈・公演情報」をご自宅へご郵送
- ヤマハ銀座店で5%割引(一部対象外商品有)
- (財)東京都歴史文化財団の運営する施設の入館料等の割引(割引率につきましては、各施設により異なります)

お問い合わせ:東京文化会館友の会事務局 TEL.03-3828-1696(平日9:00~17:00)
入会の申込:東京文化会館チケットサービス(休館日を除く10:00~19:00)

PRESENT

ご希望のプレゼント、また「音脈・公演情報」に対してのご意見やご感想、今後取り上げて欲しいテーマなどを明記の上、下記まで郵送またはメールでご応募ください。当選は発送をもってかえさせていただきます。

- ①創遊・楽遊ららび Vol.10招待券 2組 4名様
12月4日(金) 11:00~12:00
- ②東京文化会館モーニングコンサート Vol.32招待券 2組 4名様
12月9日(水) 11:00~12:00

11月1日(日)必着
公演の詳細は6~7ページ参照。①②いずれも希望日を必ずご記入ください。
〒110-8716 台東区上野公園5-45
東京文化会館「音脈・公演情報」編集部「読者の声」係
E-mail:oto@t-bunka.jp

■カフェ

cafe HIBIKI

オープン・カフェ・ゾーンとして
お気軽にご利用いただけます。

TEL&FAX 03-3821-9151
(東京文化会館1階・国立西洋美術館側)

ティータイムコンサート
13:00~大ホールロビーで
10月14日(水)・11月13日(金)・12月17日(木)



■ギフトショップ&チケットサービス

東京文化会館ギフトショップ

東京文化会館オリジナルグッズを中心に
音楽関連グッズを販売中♪
みなさまのお越しをお待ちしております。
(東京文化会館友の会会員5%OFF)

TEL&FAX 03-3828-2223
(東京文化会館1階 チケットカウンターとなり)



東京文化会館
チケットサービス

TEL&FAX 03-5685-0650
(東京文化会館1階)

■フラワーショップ

CADEAUX
カドー

花は空間に落ち着きをもたらし、
人の心を癒します…
大切な人に季節のフラワーを…
季節の花であしらった花束・アレンジメント
を用意してお待ちしております。
電話・FAXでのご予約も承ります。

TEL&FAX 03-3828-8741
(東京文化会館1階・受付正面)



Forestier
フォレストィーユ



Luxury Modern

ラグジュアリー・モダン
劇場の余韻に浸る空間



TEL 03-3821-9151
(東京文化会館2階)